



# からしだね

2016年12月号  
(522号)

キリストの受難 カトリック池田教会

共同宣教司牧：畠 基幸 神父・中村克徳 神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：[http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic\\_ikeda/](http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikeda/)



## 本号の主な記事とその掲載ページ

### 巻頭言

畠基幸神父 2

「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。(黙示録 3章20節)」

### Xmasをみんなで祝おう 3

みなさん、日曜学校のクリスマス会(12/18)とコーラセシリアのミニ・コンサート(12/25)は本年度も開かれます。予告の小さな記事ですが2つの会は祝いの場になることでしょう。

教会バザーはテーマ「共に暮らす家を大切に」

### を掲げて

6

小銭で買えたのは仲間の家で眠っていた物や作り手の顔が浮かんでくる食物、釜石地区の生活環境が想像できる食品でした。経済とは地球の自然や隣人との関わりの方であり、神さまから頂いた生と赦し、会話を通して、わたしたちは脱皮し続けるのにも気づくバザーでした。

### 松本一宏神父の遺産、模範、徳 8、9

神父の絶えなかった笑顔の奥にある強さを偲ばせる3人の追悼文。(特集の最終回)

## 巻頭言

「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。(黙示録 3章20節)」

島 基之神父

マラナタ、主イエスよ、来て下さい！待降節が始まりました。キリストの再臨の待望とかつて来られたキリストの降誕との二重の降誕を準備します。毎年、主の降誕を迎える心の準備が典礼の中心です。昨年から今年の「王であるキリストの祭日」まで「いつくしみ(ミゼルコルディア)の特別聖年」の恵みの時、わたしたちは、重大な苦しみと悲しみの出来事に遭遇する共同体の経験を味わいました。デニス神父さんの大腿骨骨折による入院。命の危機を脱して、ようやくリハビリが終わり退院すると、そのまま本国へ帰還。その間に、松本一宏神父さんの発病と入院、そして突然の訃報。皆様のたくさんの祈りと励ましにもかかわらず、二人のいつくしみ深い司祭が私たちから不意に奪われた喪失の体験を味わったのです。1年間の出来事としてはあまりに大きな痛手です。新しく赴任された中村克徳神父様の歓迎も十分できないままの日が過ぎていきました。気がつけば、早くも、クリスマスの季節です。試練の時、わたしたちの先達は信仰の火を燃え立たせて苦難に立ち向かいました。奇しくも、来年は、日本の殉教者、ユスト高山右近の列福を迎えます。どんな苦難の時も揺れ動かない高山右近の心を燃やした信仰の火、心のうちに消えることなく輝いた同じ火がわたしたちの心にも宿っています。わたしたちの心の扉を開いて迎え入れた洗礼の恵みは、消えることなく輝いています。キャンドルサービスで輝くローソクの灯火は、内面に輝く消えることのないわたしたち一人ひとりの神の命を宿した洗礼の日の救いの喜びを象徴します。それを今思い起こして、消えることのない火を燃え立たせましょう。

60年前のクリスマス、その同じ火は宣教師として来日したデニス神父の心を満たし、60年間働き続けた原動力になったのです。1957年9月15日に日本に4人のシスターとウオード神父と共に来日したデニス神父は、東京で語学研修中ではありましたが、クリスマスに池田に手伝いに来て、真夜中のミサの前に8名の洗礼式を行いました。司祭になって初めての洗礼式で、デニス神父の喜びは最高でしたとカール神父がジャパン・ジョッティングス(米国の御受難会日本宣教を支援するために寄付した恩人宛ての機関紙1958年第2号)に書いています。そして、カール神父さんは、池田小教

区を発展の様子を次のように紹介しています。「そのクリスマスから間もなく、京都の聖ヨセフ会から3名のシスターが保育園経営を引き受けるために池田教会に来られました。最初の聖堂は、古い日本家屋を聖堂と司祭館に転用したものです。狭い聖堂でしたが、床に畳が敷き詰められて、そこに人が座り、およそ120名入ることができました。」総人口11万人、1958年の春には、160名のカトリック信者が名簿に名を連ねました。カール神父さんの報告には、また将来の幼稚園に発展する児童館のことを記しています。「私たちの3名のシスターたち、- アメリカ人一人と小さな日本人2人はすばらしい人たちです。その祈りの力と宗教生活の模範と子供とその家族にたいする熱心な働きによって私たちの小教区に神の祝福が豊かに注がれるのを期待しています。現在30名の子供が登録されており、日々人数が増えています。限度は90名です。小教区では25名の洗礼志願者が勉強中です。9ヶ月から1年の勉強期間があり、その間に数多くの障害がありますから、どうか彼らが続けられますようにお祈りください」。池田教会の始まりには、このように祈る共同体のシスターたちの燃えるような宣教の火が燃え立ち、その後福音の光修道会が幼稚園の運営を引き受けて現在までにその火が消えることなく続いてきたことがわかります。

池田教会の始まりには、あのいつくしみ深いみ顔のイエス・キリストのしるしとなるカール神父やデニス神父、そしてシスターたちのいつくしみの業が輝いていたのだと思います。当時からの信者さん相互の深い教会への愛は、宣教師との個人的なかかわりの中から燃え上がったのだと思います。組織作りよりも一人ひとりに対するいつくしみの業の積み重なりがキリストの教会の体の一部となる模範だったと思います。そこで懐かしく思うのは、デニス神父のサンタクロースです。サンタクロースは、実際、実在の人物で、歴史的には聖ニコラスで、ニコラスは慈悲深く、多くの貧しい人を助けましたが、貧しい3人の娘が住む家の暖炉にこっそり金貨を投げ込んで、幸せな結婚をさせたという話が特に有名です。そのサ

ンタをデニス神父は演じることを特に喜びました。せめて60年目のサンタクロースをしてから帰国したかったと心残りのまま旅立たれました。

わたしたちの特別聖年は、たくさんの宿題を残して消化されないままですが、大阪教区では、来年は高山右近の年として定め、その霊性を学びます。右近は、まさに日本の教会の礎として、いつくみの業(ミゼリコルディアの組)の実践を生き抜いた

人でした。右近の信仰共同体は、組織と法で縛る勢力に対して、心の扉を開く愛によって作られた共同体でした。私たちに残された課題と宿題は、この霊性を学び始めることから解決の糸口が見えると期待したい。

それでは皆様、心の扉を開いて、よいクリスマスと新しい年の夢を共に思い描きましょう。

(完)

## Xmasをみんなで祝おう

### 日曜学校のクリスマス会

12月18日(日)ミサ後、カール記念館でクリスマス会をします。

日曜学校の小学生の子供達が歌を歌ったり劇をします。中高生は聖書の一部を英語朗読をします。

見に来てくれた子どもたちにはクリスマス・プレゼントを用意しています。日曜学校に興味のある子供たちも是非見に来てください。小さな子供達も大歓迎です。

日曜学校は、子供達が信仰について知識を深め神様への愛を成長させる大切な場所です。

教会の日曜学校や夏のキャンプ、遠足などで子供たちが学びと遊びを通して得たものの一部を

クリスマス会で発表します、是非ご覧になってください。当日は緊張をして声が小さくなってしまいかもかもしれませんが、暖かく見守って頂ければ嬉しいです。

大川奈

### コールセシリアのミニ・コンサート

12月25日クリスマス・ミサ終了後、カール記念館ホールにて今年もミニコンサートを開催いたします。

皆様にも一緒に楽しんでいただけるようなコーナーも用意しております。

ご来場をセシリア一同お待ちしております。

本田実

### 配布した12月カレンダーの追加・削除のお知らせ

10日(土) 1項目のみ。

ドレミの会(クリスマス会) 13:00  
("中高生お泊り会19:00"を削除)

11日(日) 4項目に減少。

待降節第3主日  
評議会  
典礼聖歌奉仕会 14:00~16:00  
歳末助け合い募金

(“中高生と共に捧げるミサ”を削除)

18日(日) 6項目に増加。

待降節第4主日  
中高生と共に捧げるミサ(追加)  
日曜学校クリスマス会  
食物の奉献  
日曜学校 終業式  
広報委員会とからしだね編集

### 12月のガラスケースのことば

神は高ぶる者に逆らい、へりくだる者に恵みをお与えになる

ペトロ 1-5-5

## 教会バザーはテーマ「共に暮らす家を大切に」<sup>注</sup>を掲げて 売り上げと献金が共に昨年度より2割アップ

10月16日



注：「共に暮らす家を大切に」はフランシスコ教皇の回勅「ラウダート・シー」（わたしの主よ、あなたは讃えられますように）の副題です。

教皇はこの回勅の序で、「わたしたちの身体そのものが地球の諸元素からできています。私達は地球の大気を呼吸し、地球の水によって生かされ、元気をもらっているのです」と指摘し、「神から賜った善きものを私達人間が無責任に使用したり濫用したりすることによって生じた傷の故に、今、（地球は）私達に叫び声をあげています。私達は自らを、地球をほしのままにしてもよい支配者や所有者と見做すようになりました。」という現状を悔いて、「もし、存在するすべてのものと親密に結ばれていると感じるなら、節欲と気遣い（ケア）が自ずと湧き出て来るでしょう」と「地球である家を大切に」するライフ・スタイルへの回心を呼び掛けています。

（注記は広報委員会）

## 冬を前に庭木剪定

軽作業なのに参加者数漸減

桜の葉がそろそろ色づき始める10月20日(木)の8時半にシニアの剪定職人と畠・中村両神父とシニア信徒が中庭の常緑樹の剪定作業を開始しました。剪定職人はアルミ製の梯子を使って高木に攀じ登って、聖堂の屋根より高く伸びた沢山の枝を切り落とし、中位の枝は互いに他の枝を遮らずに成育するように少数の枝のみを残しました。太い幹を持つ高木(アラガシ、クスノキ、モチノキ、イヌマキ)と裏の駐車場脇のアラガシや中庭のモッコクとキンモクセイ、サツキ、マリア幼稚園との間の通路沿いのムクゲなどをシニア職人が剪定し、ツバキ、カラダダネ、ナンテン、中庭通路沿いの低木はシニア信徒が剪定しました。切られた枝は両神父とシニア信徒が枝を袋詰めしやすい長さに切って60リットルの袋に詰めました。

女性信徒が調理した暖かい昼食は多くがお替りする程美味でした。昼食後、働く人数はやや少なくなり、枝の袋詰めや通路などの清掃作業は見るからにスローになりました。

最期はシニア職人が電気鋸を用いて垣根のカイヅカイブキ(針葉樹のイブキをさし木で増やした園芸種でその葉先は針葉でない)の上・横の面取りをしました。貧弱な土に育ったカイヅカイブキのところどころに針葉を持ったイブキ状の真直ぐに伸

びた枝に化けた部分が生まれ、それらは根元から切り落とされました。

総務委員会が懸命に誘ったのに、今秋の庭木剪定作業に加わったのは両神父と男女合わせて18名の信徒と昨年度に比べると1割ほど減少しました。(広報委員会 大野)



## 「大人の日曜学校」だより

—イエスはどんな声？

20日日曜日のミサ後、いつものとおり小一時間ほど分かちあいました。この日は「イエスの声」や夢に現れた「御使い」(みつかい)をめぐって話が盛りあがりました。イエスはどんな声の持ち主だったのでしょうか。優しい声だったのか、権威ある朗々たる響きだったのか、それとも???といった調子です。

十字架上のイエスにたいし、いつぼうには「メシアなら自分を救え」とあざける議員やローマ兵士がいます。目に見える「地上の国」だけにとらわれた彼らにすれば、イエスは行動の自由を失って命をすぐに奪われることになるただの犯罪者です。しかし「天の国」の支配者イエスを信じ、「あなたの御国においてになるときは、わたしを思い出してください。」と話しかける十字架の男にたいして「きょうわれわれはともに樂園にいる」とイエスは応じます。

いつものとおり地上の国と天の国が対比されますが、21世紀の地上の国に住むわれわれにイエスの声は残念ながら聞こえない。

神さまの声とまではいなくても、神さまの御使いなら夢にあらわれた、という体験が披露されました。ピンチに陥ったときや、どう対応するかわからなくなったときに何度かあらわれたのです。いずれの場合も彼の言葉や仕草が、そのまま現実となったそうです。預言者だったのですね。心から祈るとき神さまは聞き届けてくださる、と一同大納得。マリアさまが夢にあらわれた話なら、わたし自身も聞いたことがあったのですが、ひよっとすると御使いはイエス御自身だったかも・・・と勝手に解釈しました。いずれにしても、本気で心の底から祈るとき、神さまはお聞き届けくださるのですね。信心をあらたにした分かち合いでした。

(直)

## 松本神父の遺産、模範、徳 特集9

## 松本神父様を偲んで

柴田晋子

松本神父様が「永遠」という扉の向こう側へ行ってしまうから暑い夏が過ぎ黙想の家の庭のみみじが紅く色づく季節になってしまいました。

広報委員の方から松本神父様を偲ぶ特集への寄稿を頼まれたものの、空っぽになった私の心からはしばらく何も言葉が湧いてきませんでした。でも皆さんが書いてくださったお見舞いの色紙やお手紙を神父様にお渡しした時に「みんなにありがとうって伝えてね。」と言われていたのに皆様にお伝えしないままであったことが思い出され、この場を借りて神父様がお祈りくださったすべての方々に感謝されていたことをお伝えいたしたいと思ひペンを取りました。

四月が終わりに近づいたある日、しつこく私が検査の結果を尋ねたので諦めたように渋々話された内容は高層ビルから突き落とされて底なしの不安に吸い込まれるようなものでした。

必要最低限の方々にしか病気のことは言わない…。誰にも会わない…。と仰り、一病人の松本一宏を貫こうという気持ちを察することができました。私が、この機を人生の折り返し地点として病気と共生してであっても折り返しの時間を長くしましよ…といった内容のことを申し上げると年若く、実力も伴わないのに高い地位に置かれたので、人よりも人生の進みが速いのかも…と仰り、どんなに否定しても神父様の想いの方が勝っていて悲しくなりました。

松本神父様はそのお説教にも表れているよう

に、誰にでも理解しやすい言葉で話され、批判や評価されることなく、私達が感じるように感じ、寄り添って下さいました。私達はちょっと甘えすぎたのかもかもしれません。

最期の時、松本神父様は左右の肩をお父様と平石さんに支えられながら息絶えられました。相応しい二人に支えられていたと感ずます。お父様と交代して平石さん私とでベッドに神父様の体を戻してその姿を見たとき、誰もが終わったことを感じ取りました。

「かずひろ、かずひろ…」とお父様の呼び掛けのような嘆きのような声の後、ナースさん達が到着するまで部屋は静まりかえりました。来るべき時がきてしまった。この時をどう迎えるのか必死で漕いできた日々が終わったのだと、まるで置いてきぼりにされたように皆無言に沈んでいました。

「ありがとう」の言葉以外何も残されずに神父様は逝かれました。自分の亡き後の全てを神様に託されて逝かれたのだと思います。

松本神父様の闘病でストップしていた様々なことが、神父様が亡くなったことで更に必要性を増して動きだしました。神父様がなさろうとされていたことが無事実現されるようにどうぞ見守って下さいね！

私は辛口のスパイスのきいたジョークを言い合ってお腹を抱えて笑いあった時間がとても懐かしく悲しく感ずます。そして私からも「ありがとうございました」と空に向かって叫びます。

## 松本神父の遺産、模範、徳 特集10

## 松本神父様の思い出

久保昌子

私が松本神父様と出会ったのは、大学生になり、日曜学校のリーダーをしている時でした。同年代の神学生が3人、池田教会へやって来て、小学生のキャンプを手伝ってくれたのです。くくりした目と、バスの後ろの席で話していた時の明るい笑顔が印象的でした。じっくり落ち着いた中村神父、独特の魅力で子供を引き寄せる山内神父と比べると、物静かではありましたが、うまく溶け込めずにいる子供の側にさり気なく寄り添っていたり、地味だけど、大切な仕事を、いつの間にかしてくれていたりと、何とも言えない安心感を感じさせてくれていました。

私が、南アフリカのエイズホスピスで働いていて、一時帰国していた際には、松本神父様が間もなくアメリカに行かれる時でした。ちょうど次に南アフリカへ行った時には、世界一周をして帰ろうと考えていた私が、その時に神父様とアメリカで会いたいと話すと、快くOKしてくれました。そして、ヒューストンにいる知り合いの神父様にも連絡し、私が、その神父様のところにも滞在できるよう手配してくれました。シカゴの街で再会したときは街を案内し、シカゴピザをごちそうしてくれたのです。シカゴでは小学校を訪れて日本について授業もさせてもらい、忘

れられない大切な思い出になりました。

そんなこともあり、松本神父様が池田教会に戻って来られると聞いた時は、本当にうれしく思いました。忙しくなって、他の教会へ行かれることが多くなってからも、ミサの時に、松本神父様の顔が見えるとそれだけで幸せな気分になりました。気さくで話しやすい、お兄さんのような神父様でした。それだけに、もう会えないということに実感がわきませ

ん。ちょっと仕事に出かけているだけで、教会に行けば、ひょっこり出てきて声をかけてくれそうな気がします。

神父様の残して下さった、たくさん大切なものを思い起こす時、彼は神様に与えられた仕事を立派にやりおおせたのだ、と確信します。その働きに心から感謝するとともに、私達の中に生き続け、天国から見守ってくれていると思います。

## 松本神父の遺産、模範、徳 特集11

### 天国の松本神父様へ

マリア幼稚園 主任 荒木美和

お元気ですか？ マリア幼稚園の職員一同みんな元気に過ごしています。

9月からは山内神父様が理事長先生に、林顧問が園長先生を引き受けて下さいました。

運動会は、林園長先生の御指導のもと職員みんなで意見を出し合い新しいことに沢山チャレンジしました。子ども達一人ひとり、イキイキ伸び伸びして、いい顔をしていました。

10月のまりあまつりは今年は昔のように教会と同じ日にしました。みんな教会にカレーやおでんを食べに行き楽しそうでした。

松本神父様、幼稚園のこと気になりますか？ 気になりますよね・・・

心配ですか？ 心配ですよね・・・ でもあんまり心配しないで下さいね・・・

毎日感じるんです。日に日に子ども達と保護者の皆様と先生達がひとつになってきているのを。教会の方ともです。園児募集ポスターを自宅に貼って下さったり、

「お疲れ様です。」「頑張ってくださいね。」と声を掛けて下さったり、古曳さんや福本さんは、おもちつきの時に保護者が使うかっぽう着を縫って下さっています。いつも助けて下さいます。沢山の方に支えて頂いています。だから心配しないで下さいね。

去年の10月は終電がなくなりタクシーで帰りましたね。今はそんなことはなくなりました。あの時夜御飯を食べることも忘れてしまうほど忙しかったけど、林先生が

買って来て下さりみんなで食べたイチゴのジャムパン・おにぎり・ケンタッキー・ホットモットのお弁当は本当においしかったですね。大変だったけどあの時みんなで心と力をあわせて乗り越えた日々は本当に楽しかったですね。

松本神父様は優しくて穏やかで冗談が大好きだったね、とみんながよく話をします。

そしていつも心から人を愛し、信じ、許しておられたと。悲しく寂しい気持ちは今も変わりませんが、みんなで気持ちを合わせ神父様が残して下さったものを思い出し、心に刻みつけ前を向いて頑張っています。だから本当に心配しないで下さいね。

松本神父様みんなをひとつにして下さいます。ありがとうございます。

これからもずっと側でみていて下さいね。

追伸：「パウロってどこの国でしたっけ？」なんて言っていた私でしたが、実は最近、「教会に行かなくっちゃ」「教会に行きたい」と感じ、時々日曜日のミサに行かせて頂いています。聖書も聞いております・・・。



..愛されていることを  
喜ぶ

## 教会にある遺失物について

——総務委員会からのお知らせ

現在多数の遺失物(忘れ物)を、カール記念館の受付にてお預かりしております。お心当たりの方は、受付までお申し出下さい。

お引き取りがない場合は、年末に処分させていただきます。予定です。

## 表紙の絵について

本誌520号に続いてジョルジュ・ルオー(1871-1958)の1935年の作品。厚塗りの油彩で「裁判所のキリスト」や「裁判官」と呼ばれています。

前席に座る女性の被告たちを左の席の堂々と裁いている厳めしい裁判官と中央に端然と座しているキリストとの対照は誰の眼にも顕かです。

東京ブリジストン美術館蔵。

## 「読者からの声」を募集しています

「からしだね」はカトリック池田教会の部内誌として池田教会の方がたの信仰や神様から頂いた賜物と赦し、内外の宣教活動の経験などに限らず、心や頭を占めている喜びや悲しみ、思い、悩み、それを齎した経験を交換し合う媒体です。

神さまには心の奥底にあるどんなことでもお話し、赦して頂けても、聖堂の隣席の方がたに心を開いているとは限りません。それでも外の社会のように個々人が両親から生まれた後は独りで生きて行ける完全な存在でなければならないと考えずに、教会は神さまからこの大地で生を授かり、神さまの愛と導きにすがりながら、神さまに少しでも近づこうと希望を捨てていない方がたが集まる社会です。ペン・ネームや匿名でも構いませんから、ご自分の奥底にある希望やままたらぬ現実についてお書きになりますか。

独断的と思える希望でも、池田教会の他の方と思いを交換し合うことで、こだわっているご自分から外へ出る機会が訪れます。その時、異なる賜物と赦しを神さまから頂いている方がたと同感や理解を得て、これまでは未経験の思いや視野が生まれることがあります。

上記のテーマの他にも、帰天された方を偲ぶ文、読書感想文、「からしだね」への注文、その他のどんな事についてもご投稿ください。

広報委員会

宛先: [auaad433@wombat.zaq.ne.jp](mailto:auaad433@wombat.zaq.ne.jp)

原稿締め切りは毎月の第3日曜日。

## 黙想会のお知らせ 宝塚黙想の家から

### ■ 日帰り黙想会

12月15日(木) 10:00 ~ 15:30

指導: 山内十束神父

12月23日(金) 10:00 ~ 15:30

指導: 山内十束神父



### ■ 待降節黙想会

12月17日(土) 17:00 ~ 18日(日) 15:30

指導: 山内十束神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。☎0797(84)3111

## 編集後記

『いつくしみの特別聖年』が昨年12月8日から先月20日まで行われた。私はこの間、ミサ中での共同祈願の一部だけで、終わってしまったのではないかと、急に不安と反省がこみ上げ交差する。え！あなたも。いやー失礼しました。それにしても、天災の多い年である。地震・台風・噴火などで被害を受けた方や被災された方と共に、明日への希望を信じ、共に“待降節”を過ごしたいと思います。

天使の微笑